

千葉県立千葉女子高等学校における 英語教育改善のための取組

スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール
(SELHi) 事業を通じて

報告：千葉県立佐倉高等学校

百瀬 美帆

(平成9～19年度千葉女子高校に在籍，セルハイ研究副主任)

千葉県立千葉女子高等学校 植草 智代

セルハイ指定前の英語教育上の課題

創立 1900年（明治33年）
学科 普通科（各学年7クラス）・家政科（各学年1クラス）
生徒数 約970名

教師
(原因)

- ・ どの授業でも英文の詳細な理解が目標
- ・ 英語表現や文法事項の“教え込み”
- ・ 定期考査と小テストを中心とした評価

生徒
(結果)

- ・ 美しい和訳が英語学習の終着点
- ・ 英文解析型の学習方法
- ・ 筆記テスト至上主義

セルハイの指定

指定期間

平成17－19年度(3年間)

研究対象

年次進行で普通科の全生徒

(H17:約280名, H18:約560名, H19:約840名)

研究科目

外国語科の全科目

(ただし, 研究の中心は, 第1学年「英語Ⅰ」,
第2学年「英語Ⅱ」, 第3学年「リーディング」)

研究組織

校内 (外国語科職員＋管理職)

研究主任, 研究副主任, 外国語科主任,

外国語科職員全員, 教頭(2名)

(必要に応じて各分掌の部長及び学年主任)

外部 (運営指導委員)

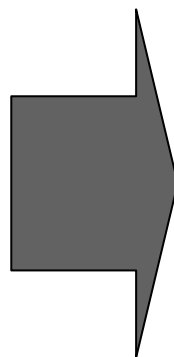
大学教授3名, 校長(県内)1名, 教頭(県内)1名

セルハイ指定を契機とした改善

英語科全体で共有する目標の設定
(Can-do listの作成を含む)

英語教育改善のための取組

- ① 共通指導体制の構築
- ② 教員研修の実施
- ③ 外部有識者による指導
- ④ 環境整備



改善された英語教育

- ① 徹底した英語使用
- ② 英語による言語活動が中心の授業
- ③ 習熟度に応じた指導
- ④ 4技能の総合的な評価

県教委, 管理職を含めた学校全体のサポート

英語科全体で共有する目標の設定

〔目標〕

聞いたり読んだりした英語を，自分自身の言葉で置き換えながら口頭で要約ができるようにするとともに，題材の内容について意見交換をすることができるようになる。

インプット

リスニングやリーディングによって多量の英語に触れる。

口頭要約

様々な言語活動を通して日本語を介さずに題材を理解し，その内容を口頭で要約できるようになる。

アウトプット

扱った話題や問題について各自が理解を深め，他者と意見交換をすることができるようになる。

【英語教育改善のための取組 ①】 共通指導体制の構築

〔指導の前提〕

英語のすべての授業を「英語によるコミュニケーション能力の育成」のために行う。

〔指導内容・方法を統一するための「共通ワークシート」〕

すべての授業について「共通ワークシート」(1時間につきA4 2枚程度)を作成する。



(留意点)

- ・英語による言語活動が授業の中心となるように構成する。
- ・英語科教員全員で作成する。
 - (1) 担当者が指定期日までに原案を作成
 - (2) 当該科目の全担当者による赤入れ
 - (3) 担当者による修正案の作成及び確認

【英語教育改善のための取組 ②】 教員研修の実施

〔セルハイ推進研究委員会〕

- ・週1～2回，年間約30回の実施。
- ・授業指導と学習評価に関する議論を中心とする。
- ・英語科全教員に加え，2名の教頭（地歴・公民）も参加。

〔授業公開〕

英語科教員同士が授業公開を頻繁に行い，フィードバックを与え合うことで相互評価を行う。

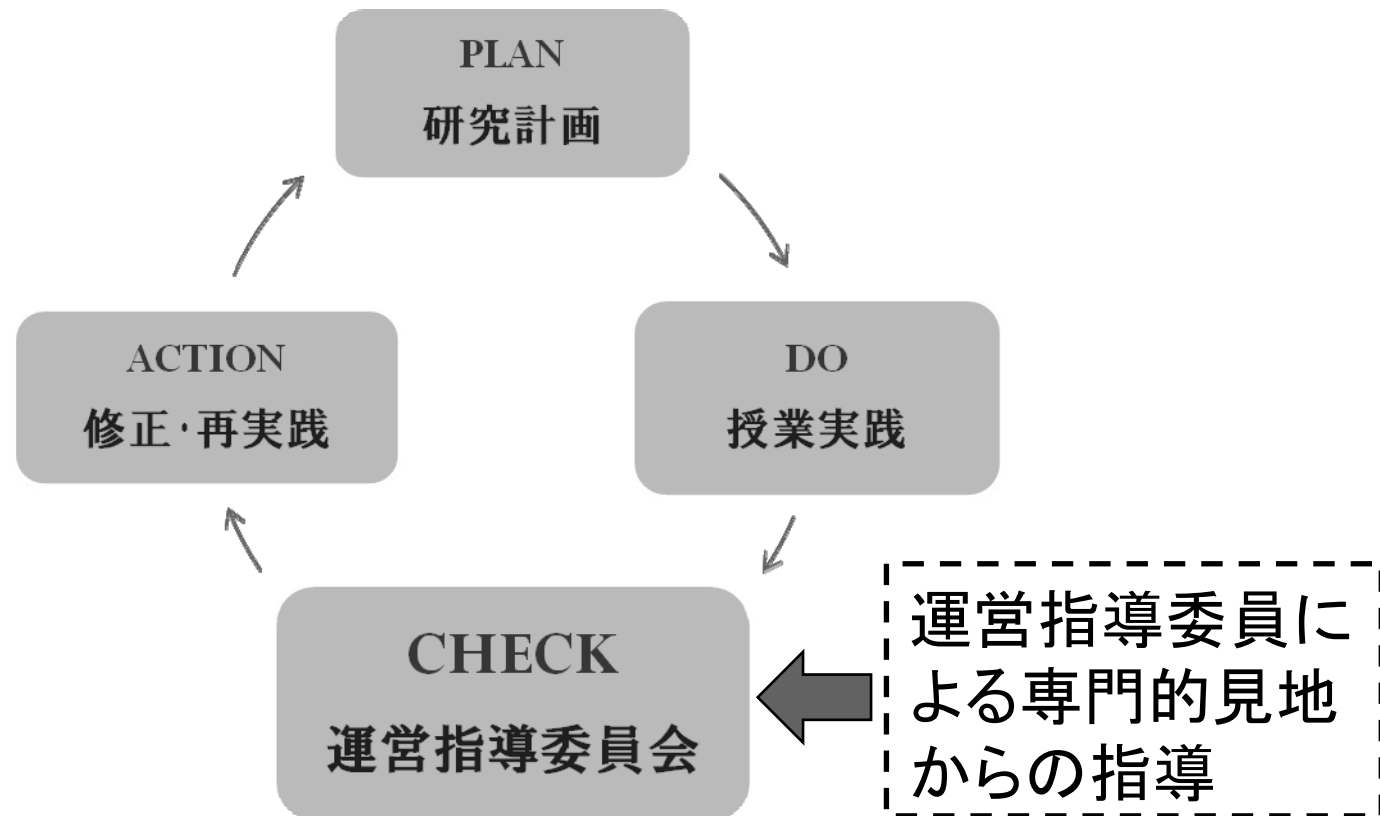
〔全職員に対する研修〕

- ・各教科での「生徒主体の授業を展開するための工夫」。
- ・外部講師による「ディベート研修」の実施。

【英語教育改善のための取組 ③】 外部有識者による指導

〔セルハイ運営指導委員会(年3回)の実施〕

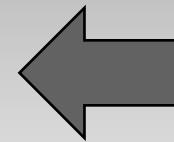
指導者は大学教授3名，校長1名，教頭1名の計5名。公開授業や研究内容等について指導を受ける。



【英語教育改善のための取組 ④】 環境整備

〔教員〕

- ・日本人教員1名が加配。
→ より手厚い指導
- ・ネイティブ・スピーカー2名が常駐。
→ 英語を使うことが自然な環境



県教委の強力なサポート

〔英語を使う実体験〕

- ・English Camp(セルハイ指定に伴って事業化)
 - … 希望生徒による“英語漬け”の宿泊研修。日本人教員とネイティブ・スピーカーが指導にあたる。
- ・海外語学研修(セルハイ指定前から実施)
 - … 希望生徒によるオーストラリア又はニュージーランドでの研修(ホームステイや現地校での授業参加など)。

【改善された英語教育①】 徹底した英語使用

〔授業内〕

原則としてすべて英語で行う。（“大切なところは日本語で”という逃げ道を遮断）

〔共通ワークシート〕

活動の指示を含め、英語のみで作成する。

〔授業外〕

朝から放課後まで、英語科教員と生徒とのコミュニケーションは英語を用いて行う。（英語科や国際科等の専門学科を持たない学校におけるセルハイの可能性を追求）

【改善された英語教育 ②】 英語による言語活動が中心の授業

〔“教え込み”からの脱却〕

教師が生徒に対して一方的に話すのではなく、ペア・ワークやグループ・ワークを通じた生徒自身による活動を授業の基本スタイルとする。

〔アウトプットの設定〕

アウトプット活動を最終ゴールとし、“アウトプットするために読む(聞く)”という展開にする。

〔“What Do You Think?”の視点〕

Content-basedで授業を展開し、トピックについてリサーチをすることで幅広く情報を収集し、最終的に自分の考えを述べることができるようにする。

【改善された英語教育 ③】 習熟度に応じた指導

〔習熟度別少人数クラス〕

2クラスを3分割(又は3クラスを4分割)し, Basic-Intermediate(1, 2)-Advancedの3展開とする。

〔クラス編成〕

定期考査の時期に合わせ, 年5回クラス編成替えを行う。

〔担当教員〕

各レベル別に担当する教員を1年間固定とし, 習熟の程度に応じて安定した指導ができるようにする。

【改善された英語教育④】 4 技能の総合的な評価

〔総合科目でのリスニング問題〕

聞く・話す中心の「オーラル・コミュニケーションⅠ」だけでなく、「英語Ⅰ」や「英語Ⅱ」などの総合科目でもリスニング・テストを実施。

〔スピーキング・テスト〕

各学期に、インタビュー形式でのスピーキング・テストを実施。学習した題材に絡めて出題。

〔授業とリンクした筆記テスト〕

定期考査において、英文の要約を完成させる問題や、自分の意見を書く問題を設定。

セルハイを3年間経験した生徒

平成19年度第3学年生徒による 学年保護者会でのスピーチ

「千葉女子高校でセルハイの授業を受けて」

英語教育改善のためのポイント①

全体で共有する目標の設定

コミュニケーション能力の育成を目指した目標を設定する必要性

- ・ 4技能について3年間の学習成果を作成し、生徒・保護者・地域に公表しているか。
- ・ 学校や生徒の実態を踏まえた適切な目標になっているか。

目標設定に関する研究

- ・ 優れた事例の収集、普及
- ・ 設定した目標に関する指導

国・県の支援

英語教育改善のためのポイント②

チームとしての取組

どのクラスでも同じ授業が展開されている必要性

- “Super Teacher”が1人だけいる状態ではなく，“Good-enough Teachers”が10人の英語科作りをしているか。
- 英語で行うことを基本とする授業を学校全体でバックアップしているか。

英語教育に対する 学校のサポート

- 校長のイニシアティブ
- 英語科内の組織作り

↑
学校全体の理解

英語教育改善のためのポイント③

英語科教員の意識変革

- 現在の指導や評価を客観的な視点で検証する必要性
- ・ 学習指導要領の規定内容に沿った授業か。
 - ・ 自分の経験だけに基づく“思い込み”はないか。
 - ・ 大学受験を言い訳にした文法訳読をしていないか。
 - ・ 生徒の学習意欲を削いでいないか。

外部からの指導・働きかけ

- ・ 大学関係者による専門的な指導
- ・ 指導主事のリーダーシップ

国・県の支援

英語教育改善のためのポイント④ すべての学校における改善

セルハイの取組を全国どの学校でも行う必要性

- ・優れた英語教育の実践が他校にも広がっているか。
- ・他校の取組について情報収集ができているか。
- ・他校の取組を自分の学校に応用する方法を研究しているか。

優れた取組の全国的な普及

- ・県，国レベルでの情報収集
- ・研究会，学会等への参加

国・県の支援